

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：(2) 国道防災課

担当課長名：(2) 鈴木克宗

事業名	一般国道468号 <small>しゅとけんちゅうおうれんらくじどうしゃどう</small> 首都圏中央連絡自動車道 (大栄～横芝)		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：千葉県香取郡大栄町吉岡 至：千葉県山武郡松尾町谷津			延長	約18.5km	
事業概要	<p>首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、東京都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、首都圏全体の道路交通円滑化や機能の再編成等を図る目的の事業である。</p> <p>大栄～横芝間は、成田国際空港に近接するため物流の効率化に貢献できるとともに、農業・水産業への支援などが図られる延長約18.5kmの計画です。</p>					
H 年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H 年度用地着手	H 年度工事着手			
全体事業費	約1040億円	事業進捗率	0%	供用済延長	0.0km	
計画交通量	20,100台/日～24,000台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 873/873億円 (事業費：741/741億円 維持管理費：133/133億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,180/1,180億円 (走行時間短縮便益：1021/1021億円 走行費用減少便益：135/135億円 交通事故減少便益：24/24億円)	基準年 平成17年		
感度分析の結果	事業の效果等 ・円滑なモビリティの確保（第一種空港成田国際空港へのアクセスが改善される） ・都市の再生（首都圏中央連絡自動車道の一部を形成）					
関係する地方公共団体等の意見	千葉県と18市町村で構成される首都圏中央連絡自動車道建設促進既成同盟会や地元経済団体に構成される建設促進県会議、圏央道周辺市町村である成田市と7町で構成される横芝・神崎間首都圏中央連絡自動車道建設促進協議会総会などより早期整備の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成14年4月16日に成田空港平行暫定滑走路が供用され、1日当りの発着枠が約1.5倍に増加。これに伴い航空貨物量も増大しており、物流の効率化などが期待されている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成13年度に着工準備箇所位置付けられ、平成16年度より環境影響調査を実施している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成13年度より現地調査を踏まえ、稀少猛禽類（材効）が確認されたため、平成16年1月から平成17年8月まで環境影響評価のための環境調査を行ったところである。今後もH18年度末の都市計画を目標に引き続き所定の手続きを推進する。					
施設の構造や工法の変更等	コスト縮減に資する調達方法の採用や新技術の積極的活用など、コスト縮減に努める。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。